

宮古市立藤原小学校

2 [かかわる]	14 復旧・復興への歩み 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	総合的な学習の時間
-------------	--	-----------

【題 材】 地域から学ぶ 【対 象】 全学年

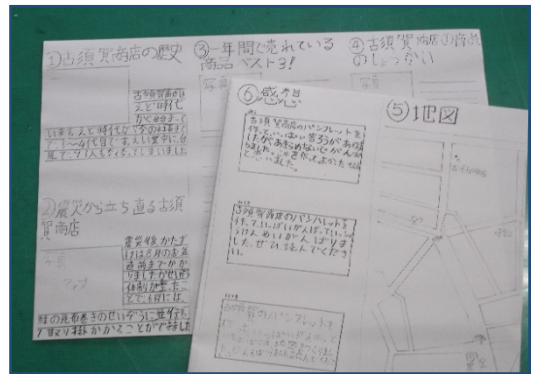
【4年生：藤原地区の水産加工場を調べよう】

- ①まち歩きを行い、「藤原 水産加工場マップ」を作成する。
- ②宮古市水産課職員と地域の水産加工業者の方をお招きし、話を聞く。
 - ・藤原地区で水産加工業が盛んになった理由と歴史 ・水産物を加工する必要性と商品価値
 - ・宮古市の水産業との関連 ・今後の水産業の在り方（復興と関連して）等
- ③工場見学「古須賀商店」
- ④工場見学及び作業体験「佐々京商店」
- ⑤工場見学及び販売体験「山英商店」
- ⑥パンフレット作成開始 → 中間発表会・意見交流会（講師：見学した3商店の皆さんと宮古市観光課職員） → 手直し → 印刷完成 → お世話になった3商店に届けて、店先に並べるなど活用してもらう。



魚菜市場でホタテ販売体験

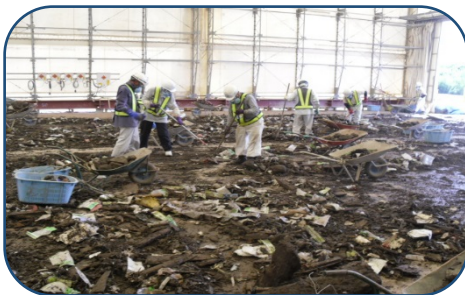
時間がたつにつれて、手際よくお客さんとやりとりができるようになりました。「いらっしやいませー!」



古須賀商店：パンフレット原

【5・6年生合同：地震・津波防災】

- ①国土交通省東北地方整備局釜石港湾事務所の協力により、『地震・津波防災講座』を開催する。3.11東北地方太平洋沖地震及び津波の概要を知り、今後の津波防災について考えた後、海上から防波堤の復旧工事を見学した。
- ②宮古地区災害廃棄物業務委託事務所の協力により、藤原埠頭にある『がれき処理場』を見学した。



がれき処理のスタートは手作業でした。

宮古地区の災害廃棄物は約 713,600 t ありました。(体積でいうと大体 25mプールで 2300 個分)。2013年7月末時点で約 75%の処理が終了していました。宮古地区のがれき処理が他地域より早い理由を教えてくださいました。①東京都・大阪府・群馬県・石川県・山形県などの協力がある。②地域の方が非常に協力的である。等 学区内で多くの人がかかわり、復旧のために努力していました。

宮古市立藤原小学校

安全な避難経路を考えたい

[5年生：ハザードマップを作成しよう]

- ③宮古市社会福祉協議会の協力を得ながら、藤原1～3丁目・仮設住宅の方々12名の自宅を4グループに分かれて訪問し、3.11の避難の様子を「避難経路」を中心にインタビューする。
- ④テープ起こしを行い、振り返る。
- ⑤3.11の際の避難経路、危険箇所等を地図上に記入する。
- ⑥ハザードマップ一次案を作成し、インタビューに協力いただいた方と宮古市危機管理課職員に意見を聞く。
- ⑦意見を参考に、ハザードマップを修正する。
- ⑧発表会を開くとともに、地域に配布する。

質問内容の一部

- ・避難経路を教えてください。
- ・危険だと思ったことや場所はありますか？
- たか。
- ・誰かに避難するように声をかけられましたか。



多くの人の協力で復旧が進んでいる

[6年生：人とのかかわりを考える]

- ③人とのかかわりに関する「藤原の歴史」を調べよう。
- ④劇『多良間漂流記』を創作する。
*江戸時代、宮古の商船が多良間に流れ着き、2か月間島民から親切にもてなされ無事に宮古に戻ることができた。商船「善宝丸」の船頭は藤原出身である。
- ⑤地域の人とかかわりながら劇づくりを行う。
地域の方7名と市役所に勤務している沖縄出身の方に方言を指導していただいた。
- ⑥学習発表会で協力いただいた方もお招きし、披露した。
- ⑦一人ひとりが学んだことをパワーポイントにまとめ、発表した。
- ⑧城南小学校・山王小学校との交流会（心のかけはプロジェクト）では、全員でプレゼンテーションを行い「人とのかかわり」をテーマとした学習の発表を行った。



これまでの学習で、「人とのかかわり」がいかに大切なものか、改めて考えさせられました。今ある自分たちは、全国の様々な人の支えのおかげだということに日々感謝し、私たちも、相手を思いやる気持ちをもち誰に対しても温かい気持ちをもって接していきたいと思いました。

[考察] 地域や関係機関の協力のおかげで「地域学習」が進んでいる。人とかかわりながら、生まれ育ったまちを見直し、自分が今できることを発信する学習は、これから大人になり社会で生きていく子供たちに最も必要な力を育てることになると思う。今後も地域とともに子供たちの学びを考え、積極的に発信していきたい。